



タイの手作りトラック「イタン」。農業用の汎用エンジンを使って駆動する。村の修理工場では、職人たちが独学で身につけたイタン作りをおこなっている



春は耕起のシーズンである。耕起に使うこの耕転機もタイの職人たちが発明した



水田地帯を抜ける道。イタンや耕転機は毎日この道を通って農場と村を行き来する

トラックを手作り!?

タイで生活しているといろいろと驚かされる。辛い食事や仏教など、タイならではの「カルチャーショック」は、もう日本でもおなじみだろう。だが、住んでみてはくがなによりも驚いたのは、タイの村には、トラックを手作りしている人たちがいることだ。東北タイのコラート県とその周辺の農村には、スクラップ部品を集めて「イタ

ン」と呼ばれる小型トラックを手作りしている人が数多い。

タイの技術や機械に関心をもつ人は少ない。そもそも発展途上国の技術に注目すること自体、きわめてめずらしい。だが、この手作りトラック、これまでまじめな研究ではあまり触れられることがなかったが、タイ社会を考えるとそれは貴重かつ格好の手がかりなのだ。イタンとそれを作った人々を追いかけてみると、タイで

るで簡単に入手できる。こうしたスクラップ部品から生まれてきたのがイタンなのだ。誰がイタンを最初に発明したかは今ではわからない。イタンはとれもこれも基本的には同じデザインで、鉄骨で作ったフレームに中古部品を組み立てたトランスミッションやサスペンションを取り付けて、エンジンは取り外し可能な農業用のエンジンを使う。価格が安く、農用ディーゼルエンジンを使うため燃費がよく、さらにエンジンを取り外して、ポンプや発電機などに転用できるので、農民たちには根強い人気を誇っている。

日本ではこのネットワークはメーカーや販売店が提供している。だが、町から遠く離れたタイの農村にまで及ばない。都市部でさえ、企業によるアフターサービスが広範囲に届き始めたのは比較的最近のことなのだ。タイの職人と彼らの驚くべき修理技術は、このような機械たちを「生かし続ける」ために発達してきた。町から離れた村の、手に入る部品も限られた状況のなかで、彼らはスクラップを利用したり、機械自体に改造を加えたりしながら、機械が動き続けるように工夫を重ね続けてきた。

そうしたなか、手先が器用な人や機械好きの人たちが、農業のかたわらに修理工場を営むようになってきた。彼らは都市部の中華系の労働者や企業家と結びつきながら、次第にタイ独特の職人集団を形成するようになった。先ほど触れた徒弟制度がこうした職人集団の結束の柱である。

転用も改造も自在の心地よさ

イタンは、タイの職人たちのこうした歴史を反映した機械である。タイでは、正規の修理部品が手に入りにくいこともあって、スクラップから取り外したジャンク部品を大量に修理に使った。タイではこのためにわざわざ日本から大量のスクラップを輸入しており、今ではたいがいこの

おもに中古部品から組み立てられるイタンの工程は、修理工であれば、普段の修理作業で慣れ親しんでいるものである。そのうえ、現在では電話一本でイタン用の中古部品セットをバンコクから村まで送ってくれる業者までいる。そのため、イタン作りはコラートやその周辺の農村で広くおこなわれている。

手作りトラックから見るタイ社会



おける職業のあり方とライフスタイル、人とモノの関係が見えてくる。イタンを作っている人たちは、たいいてい農業のかたわら軒先で小さな修理工場を開いている職人である。彼らのなかには都市の工場でしばらく働いたあと、村に帰ってきた人も多い。タイの地方都市や幹線道路沿いには、いたるところに小さな修理工場や鉄工所がある。路肩に店を開いたいわば「修理の屋台」といった最小の店から、長屋の一角に店を開いた家電の修理工場まで。町には零細な修理業者があふれており、なにかが壊れても直してくれる人を探すのには苦労しない。そのため、タイでは五〇年前のトラックや古い家電など驚くほど古い機械が直されながら使われ続けている。

さらに驚くことに、こうした修理工のなかには学校で技術を学んだ人はほとんどいない。彼らはいいて小学校か中学校を卒業した後、街角の工場に徒弟として預けられて、実地で仕事を学んできた。いわば徒弟上がりである。

こうした職人たちを追いかけていくと、タイの農村生活の思いがけない一面を目にすることになる。戦後の経済成長と八〇年代からの工業化を受けて、農村にはバイク、家電、農業機械、自動車、農用エンジン、カラオケセットなどさまざまな機械類がもたらされてきた。これらのなかには、現地で生産されたものもあれば日本などから輸入された中古品(主に家電、自動車、トラックなど)もある。

機械が機械であるために

機械があれやんと動いているということの背景には、実はきわめて多様な物事が関係している。機械が機械であり続けるためには、新陳代

見ごろ・
食べごろ
人類学

森田 敦郎

(もりた あつろう)

東京大学大学院総合文化研究科